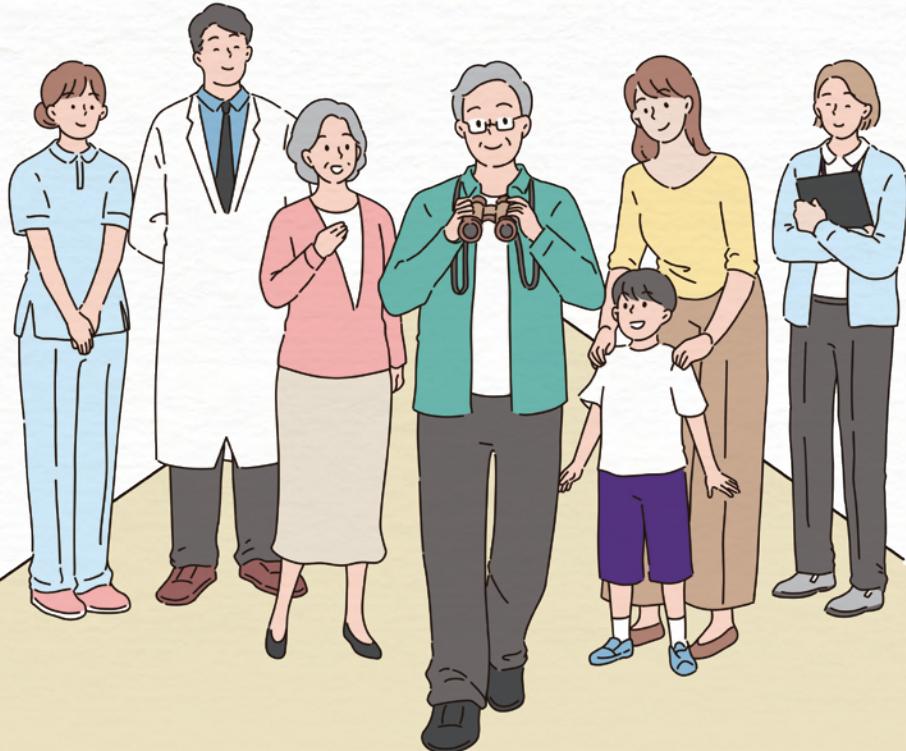


アイザベイ[®]による治療をはじめられる 患者さんとそのご家族の方へ

監修：琉球大学大学院医学研究科 医学専攻眼科学講座 教授 古泉英貴 先生



目次

はじめに	4
眼の構造について	6
萎縮型加齢黄斑変性とは	7
加齢黄斑変性の主な症状	8
患者さんに生じる困りごと	10
加齢黄斑変性の診察で行われる検査の例	12
アイザベイ®による治療について	14
アイザベイ®の投与方法	16
アイザベイ®の副作用	18
注射にあたって	20
その他の対策	22
患者さんとそのご家族の方のための支援制度	24
治療記録	25
セルフチェック用アムスラーチャート	29
アムスラーチャート記録	30
ご家族の方にお願いしたいこと	34

はじめに

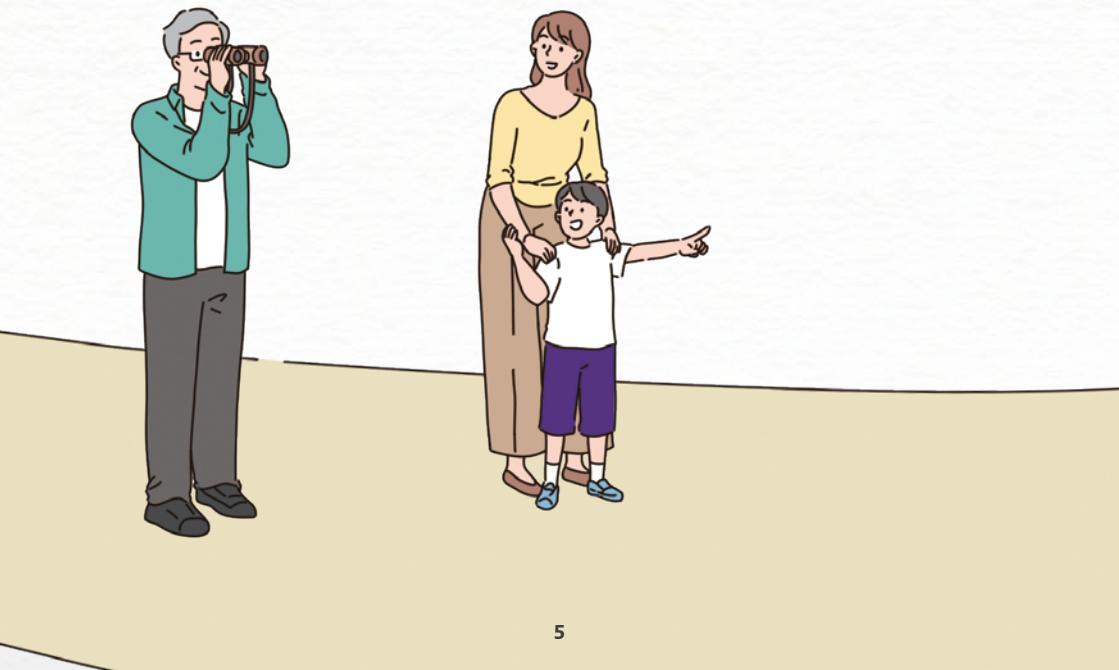
この冊子は、アイザベイ[®]というお薬による治療を、これからはじめられる患者さんとそのご家族の方のために作成いたしました。

アイザベイ[®]は、**萎縮型(いしゅくがた)加齢黄斑変性(かれいおうはんへんせい)**という病気の患者さんのためのお薬です。この病気では、網膜の組織が萎縮(傷んではたらきが悪くなること)し、眼の機能(視力や視野など)が徐々に低下していきます。病気が進行すると萎縮が拡がって、眼の機能低下も進行し、生活面に支障をきたす可能性もあります。アイザベイ[®]は、そうした萎縮の拡がりを少しでも抑えることを目的としています。



この冊子では萎縮型加齢黄斑変性のこと、アイザベイ®のはたらき、投与の際の注意などについて解説しています。アイザベイ®による治療では、定期的な投与を行います。本冊子を通じて、病気やお薬についての理解を深めていただき、治療の継続にお役立ていただければ幸いです。

これからも訪れるであろう人生の大切な瞬間に備え、前向きに治療に取り組んでいただけることを心より願っています。本冊子は、ご家族の方ともぜひ一緒にご覧ください。

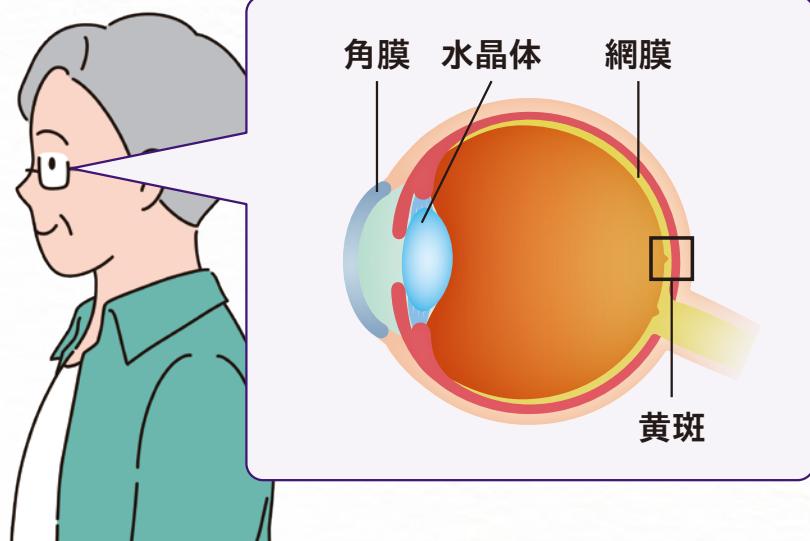


眼の構造について

私たちの眼の奥には**網膜(もうまく)**という薄い膜があり、網膜は眼で見た情報を捉えて、脳に伝えています。

網膜の中心部にある**黄斑(おうはん)**は、視力を支える特に重要なところで、物の形や大きさ、色、奥行きなどを見分けるはたらきをしています。この部分に何らかの異常が発生すると、眼の機能(視力や視野など)の低下をきたすことがあります。

眼の構造のイメージ

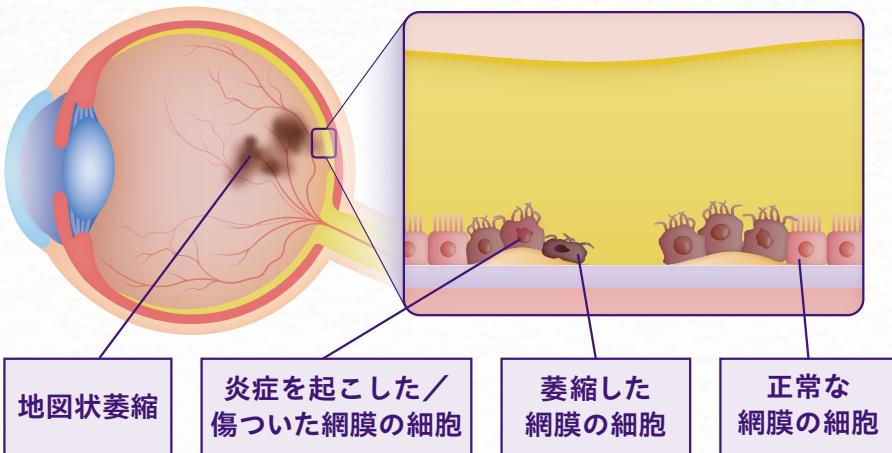


萎縮型加齢黄斑変性とは

萎縮型加齢黄斑変性は、黄斑において、網膜の一部に萎縮(傷んではたらきが悪くなること)が起きて、視力や視野の異常が生じる病気です。この萎縮のことを、地図状萎縮といいます。萎縮が黄斑の中心部まで拡がると、眼の機能(視力や視野など)が大幅に低下してしまうこともあります。

萎縮型加齢黄斑変性は加齢黄斑変性のタイプの1つで、**萎縮型**のほか、異常なもろい血管が発生する**新生血管型**もあります。国内において、加齢黄斑変性(萎縮型や新生血管型)は視覚障がいの原因として**4番目**に多い病気となっています。

萎縮型加齢黄斑変性のイメージ



加齢黄斑変性※の主な症状

加齢黄斑変性（※）の主な症状としては、**視界がゆがむ**、**視野の中心が暗く見えなくなる**、**視界がぼやける**などが挙げられます。ただ、必ずしも症状があらわれるわけではなく、病気が進行していても、自分ではわからないことがあります。

正常な状態



視界がゆがむ



視野の中心が暗く
見えなくなる



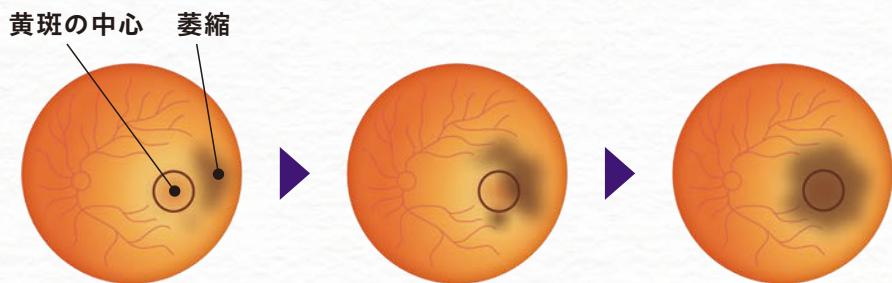
視界がぼやける



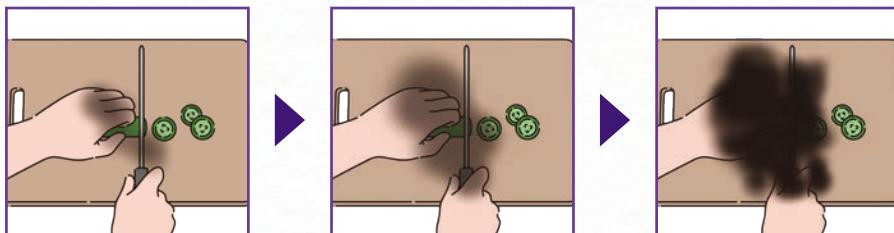
※萎縮型加齢黄斑変性は、加齢黄斑変性のタイプの1つです。

萎縮型加齢黄斑変性では多くの場合、少しづつ地図状萎縮が拡がっていきます(上段の図)。そうした地図状萎縮の拡がりとともに、症状も悪化していくとされています(下段の図)。

萎縮が拡がっていく様子(イメージ)



症状が悪化していく様子(イメージ)



患者さんに生じる困りごと

病気が進行すると、日々の生活で困ることが増える可能性があります。困ったことや悩みがあれば、医療機関で相談しましょう。

困りごとの例

- 料理や洗濯などの家事がしづらい



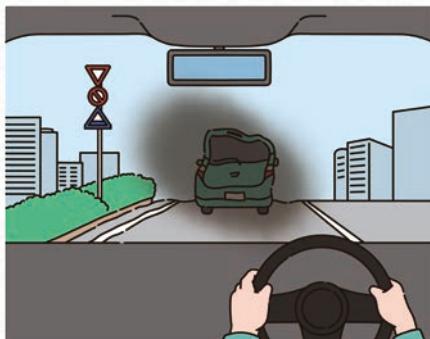
- 家族や周囲の方の顔が見づらい、わからない



- 携帯電話やスマートフォンが操作しづらい



- 運転のときに見えない、見えづらい箇所がある



- 文字が読みにくく、本や新聞が読めない



- 趣味の対象が見づらい(楽しみづらい)



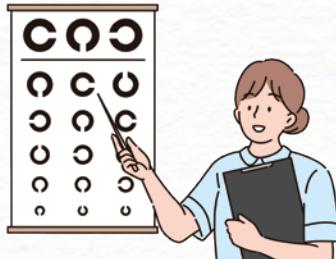
加齢黄斑変性※の診察で行われる検査の例

受診の際には眼の状態を調べるために、**視力や視野の検査**、**眼の奥の検査**など、いくつかの検査を行うことがあります。また、より正確な診断や病気の状態の確認のために、**画像検査**が行われることもあります（次ページ参照）。

主な検査

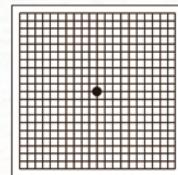
● 視力検査

視力を定期的に計測することで、病気の状況や進行の程度を調べます。



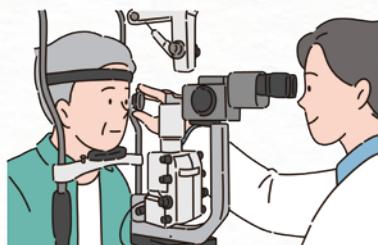
● 視野検査

アムスラーチャート（29ページ）などを用いて、視野にゆがみや欠けている部分があるかどうかを調べます。



● 眼の奥の検査

検眼鏡や顕微鏡などを用いて、網膜など眼の奥の状態を観察します。



※萎縮型加齢黄斑変性は、加齢黄斑変性のタイプの1つです。

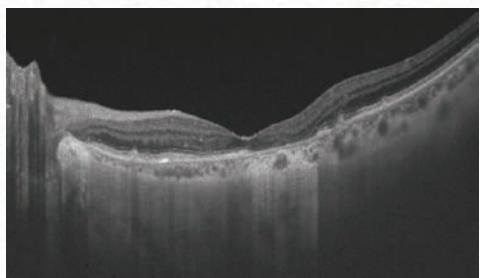
● 眼底撮影

カメラなどを用いて、眼の奥の様子を撮影します。



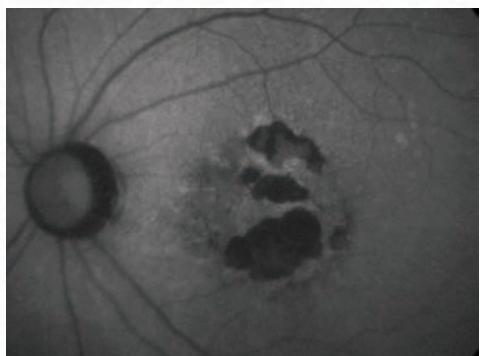
● 光干渉断層撮影(OCT)

網膜の組織断面を観察できる検査です。



● 眼底自発蛍光検査(FAF)

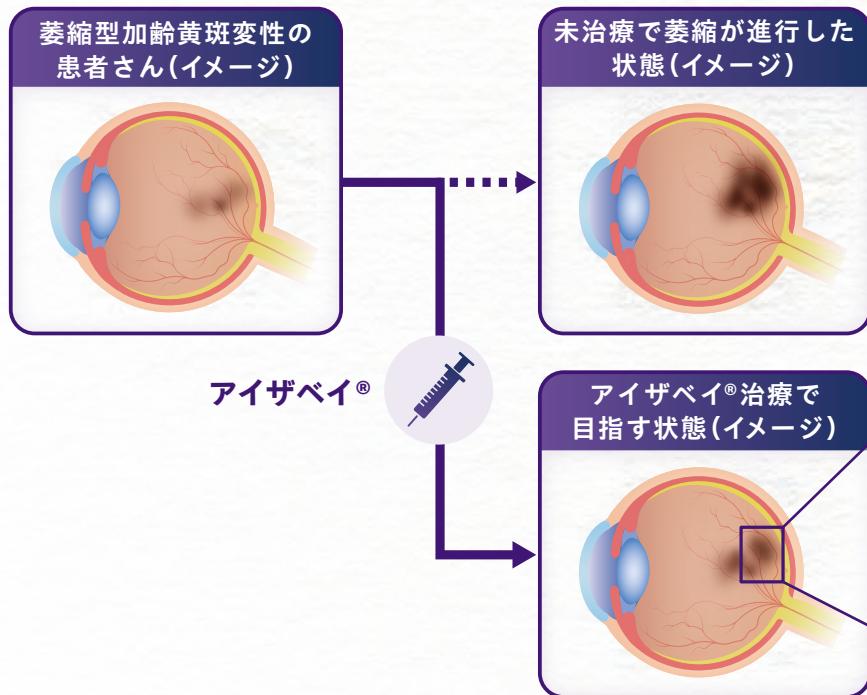
網膜の状態を可視化する光を照射して撮影します。地図状萎縮の進行の様子を調べるのに有用です。



アイザベイ®による治療について

アイザベイ®は白眼の部分から眼の中に注射するお薬で、**萎縮型加齢黄斑変性における萎縮の拡大を抑えることを目的**としています(※)。このお薬は「**補体**」という、体の免疫の機能を補っている蛋白質の1つにはたらきます。

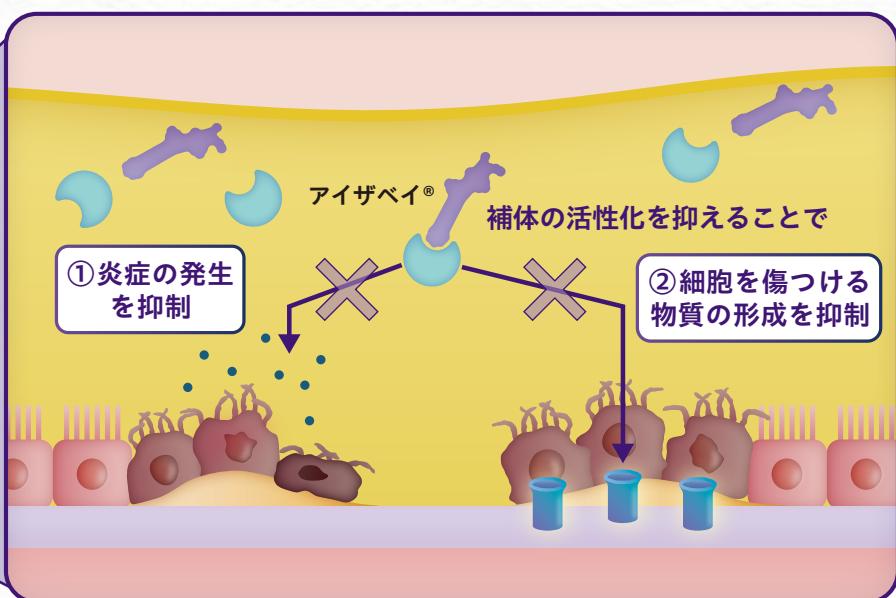
アイザベイ®による治療の目的



※アイザベイ®は地図状萎縮の面積が拡大するのを抑制するお薬です。萎縮型加齢黄斑変性において、既に失われた視力や視野を回復することは現在の医療では難しいとされています。なお、アイザベイ®は、海外での臨床試験結果を基に承認されました。日本での臨床試験は実施中です。

萎縮型加齢黄斑変性は、特定の補体が過剰に活性化することが一因として考えられています。その結果、網膜の炎症が起きたり、網膜の細胞を傷つける物質が形成されたりし、萎縮の発生や拡大が引き起こされると推測されます。アイザベイ[®]は補体のうち、特定のもの(C5)だけに結合し、活性化を抑える作用があります。それにより、網膜の炎症や網膜の細胞を傷つける物質の形成を妨げて、萎縮の拡大を抑制すると考えられています。

アイザベイ[®]のはたらき(イメージ)



アイザベイ[®]



補体(C5)



・炎症性物質



細胞を傷つける物質

アイザベイ®の投与方法

投与スケジュール

治療開始から最初の1年間は、1ヶ月に1回注射します。2年目以降は、2ヶ月に1回注射します。

1年目



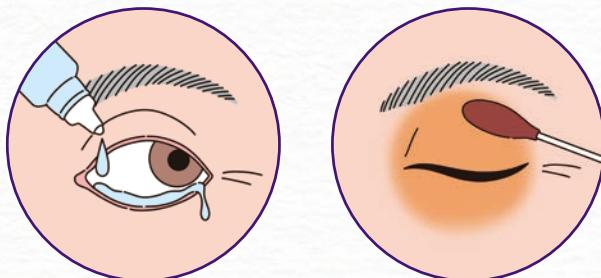
2年目以降



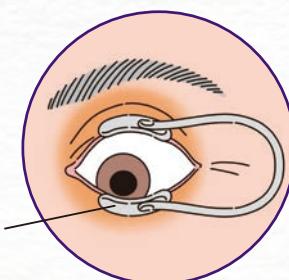
注射の流れ

アイザベイ®の投与当日は、以下の流れで注射を行います。

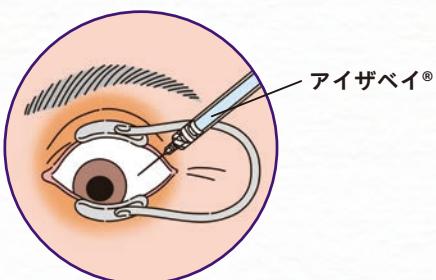
- ① 注射する前に瞳を拡げる**散瞳薬、麻酔薬**
(必要に応じて広域抗菌薬) **を点眼し、消毒**
します。



- ② まぶたを押さえる器具を
用いて、**眼が開いた状態を**
維持します。



- ③ 白眼の部分から眼の中に
アイザベイ®を注射します。



アイザベイ®の副作用※

注射した後は、一時的に物が見えにくくなったり、霧がかかったように見えることがあります。

見え方が十分に回復するまでは、機械類の操作や車などの運転は控えてください。



以下のような眼の症状があらわれたときや、いつもと違うと感じる症状が認められた場合は、すぐに医療機関に相談してください。

- 視力の低下
- 眼の痛み
- 眼の充血
- いつもよりまぶしい
- 霧がかかったように見える
- 視界にごみや虫のようなものが飛んでいるように見える
- 物がゆがんで見える
- 視野の中心が暗くなる
- 視野の中に見えない部分がある
- 視界の中に閃光のような光が見える



※お薬や注射に対する反応として引き起こされる可能性があります。

アイザベイ®の特に注意したい副作用

前のページで紹介した眼の症状は、アイザベイ®の眼に関連する副作用の兆候の可能性があります。

- **脈絡膜血管新生(みゃくらくまくけっかんしんせい)**

血管の異常増殖に伴う血液などの漏れによる眼の傷害

- **眼内炎(がんないえん)**

細菌や真菌などによる眼の中の感染

- **眼内炎症(がんないえんしょう)**

細菌や真菌の感染が原因ではない眼の中の炎症

- **眼圧上昇(がんあつじょうしょう)**

眼の中の圧力が通常よりも強くなっている状態

- **網膜剥離(もうまくはくり)、網膜裂孔(もうまくれっこう)**

網膜の一部がはがれる、または裂けたり穴が開いた状態

アイザベイ®投与により免疫が低下する可能性もあるので、感染症様症状(発熱、倦怠感、頭痛など)があらわれた場合には、すぐに医療機関に相談してください。



注射にあたって

Q. アイザベイ[®]を注射するとき、痛みはありますか？

A. アイザベイ[®]を注射する際、圧迫感を感じるとの報告があります。注射前には麻酔薬を点眼し、注射時には細い針(0.3mm)を使用することにより、痛みや圧迫感の対策を行います。

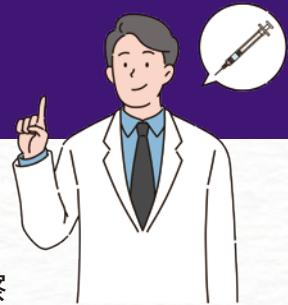
Q. 針が怖いのですが、対処法はありますか？

A. 投与の際は医師が声をかけてくれます。看護師さんに手を握ってもらったり、自分の呼吸や足のつま先を動かすことなど他のことに集中したりして、体の力を抜いてください。



Q. 1回の治療はどのくらい時間がかかりますか？

A. 治療前の検査が必要ない場合、散瞳薬を点眼後、30分ほど待機します。その後、麻酔薬を点眼し、数分ほど消毒を行ってから注射します。



Q. 入院は必要ですか？

A. 通常は日帰りですが、眼の状態を観察するため1泊程度の入院を要する場合があります。

Q. 注射後、気を付けることはありますか？

A. 注射後は一時的に物が見えにくくなったり、霧がかかったように見えることがあるため、見え方が十分に回復するまでは、機械類の操作や車などの運転は控えてください。洗顔・洗髪などについては、主治医の指示に従ってください。

Q. アイザベイ[®]をやめたらどうなりますか？

A. 治療を中断した場合に病気の進行がどうなるかは、臨床試験などで確認されていません。ただ補体(C5)が再び活性化(15ページ参照)し、網膜の炎症や網膜の細胞の損傷の進み方、また地図状萎縮の拡大速度が、未治療の場合と同じようになる可能性があります。

眼の機能は地図状萎縮の拡大に伴い低下します。地図状萎縮の拡大により視力が低下したり、視野が欠けたりすると、元の視力や視野を取り戻すことができないとされています。そのため医師の指示に従い、治療継続を目指しましょう。

諸事情により治療を中止したい場合は、まず医師に相談してください。

その他の対策

日常生活でできる対策

加齢黄斑変性(※)の発症や進行には、生活習慣なども影響する考えられています。加齢黄斑変性は、既に発症している眼と反対側の眼にも発症する可能性があるため、その予防のためにも、生活習慣を見直し、取り入れられる対策は積極的に行いましょう。

※萎縮型加齢黄斑変性は、
加齢黄斑変性のタイプの1つです。

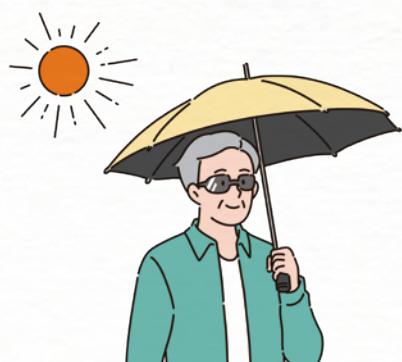
● 禁煙

喫煙は加齢黄斑変性の発症や進行につながると報告されています。
喫煙はやめましょう。禁煙が難しい方は、医療機関にて禁煙外来を受診することもできます。



● 紫外線対策

日光や人工光が眼に当たると悪影響を及ぼすことがあります。日差しの強い日は**日傘をさす、帽子をかぶる、遮光眼鏡やUVカットのサングラスをかける**などで紫外線から眼を守ることが大切です。



● 食生活の改善

加齢黄斑変性では、体内の酸化ストレスの増加により、網膜などの機能が低下すると考えられています。以下のような**抗酸化作用のある食物の積極的な摂取を心がけましょう。**食事から十分に摂れない場合は、サプリメントにより摂取することもできます。

抗酸化作用のある食物

オメガ3脂肪酸

- えごま油、あまに油
- くるみ
- まぐろ、さば

など

ミネラル(亜鉛、銅など)

- かき、ほたるいか
- ビーフジャーキー
- 田作り、干しえび

など

ビタミンC、ビタミンE

- せん茶
- ブロッコリー
- しょうが
- アーモンド

など

β (ベータ)カロテン

- のり
- しそ
- にんじん

など



患者さんとそのご家族の方のための支援制度

患者さんとそのご家族の方のための支援制度の一部をご紹介します。利用できるかどうかは、患者さんによって異なりますので、まずは医療機関にご相談ください。

支援制度の例

● 医療費助成制度：高額療養費制度

医療機関や薬局で支払った治療費が、**ひと月の上限額を超えた場合に、超えた金額が払い戻される制度**です。詳細は別冊「アイザベイ®による治療を受ける患者さんとそのご家族の方へ 高額療養費制度ガイドブック」をご覧ください。

● 身体障害者手帳

視覚の障がいが一定の程度に相当すると認定された場合に交付される手帳です。**さまざまな福祉サービスを受けることができます**(例: 医療費の助成、税金の減免や控除、交通機関や有料道路通行料の割引など)。手続きの方法などは、お住まいの市区町村の担当窓口に確認しましょう。



治療記録

治療は継続することが大切です。情報を記録しておきましょう。

通院日・通院回		診療時に言われたこと、治療後に気になった症状や、次の診療で確認したいことなどをメモしておきましょう。
記入例	2025年10月1日	痛みなどの症状→すぐに電話 1週間程度は違和感 注意 次回：10/18 寝るときまで目がぐるぐる。 11月に孫の結婚式に参加か、化粧できる？
検査日・アイザベイ®投与日	年　月　日	

治療記録

治療は継続することが大切です。情報を記録しておきましょう。

通院日・通院理由	メモ
年　月　日 検査日・アイザベイ®投与日	

通院日・通院理由	メモ
年　月　日 検査日・アイザベイ®投与日	

治療記録

治療は継続することが大切です。情報を記録しておきましょう。

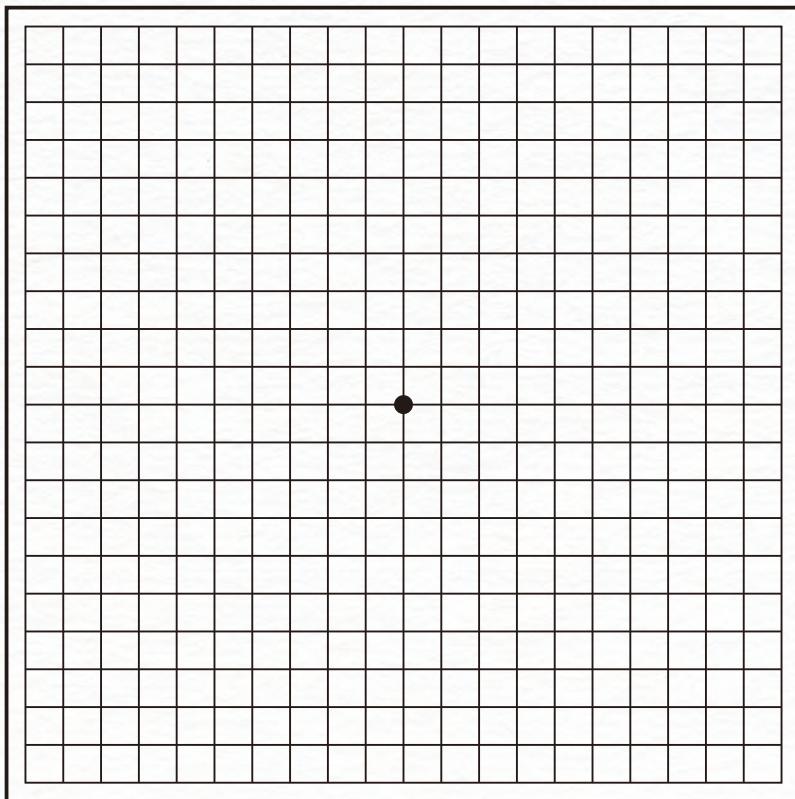
通院日・通院理由	メモ
年　月　日 検査日・アイザベイ®投与日	

記録シートが足りなくなったら医療従事者にお伝えください。

セルフチェック用アムスラーチャート

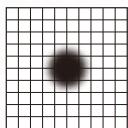
方法 メガネ・コンタクトレンズは装着したままチェックを行います。

- ① 眼から30cmくらいシートを離しましょう。
- ② 片目で確認しましょう。 ③ 真ん中の黒い点を見てください。

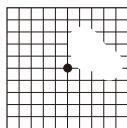


以下のように見えた場合や、以前と比べて見え方が悪くなった場合には、医療機関に連絡してください。※これらの見え方は同時に起こる可能性もあります。

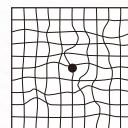
ぼやけて薄暗く見える



部分的に欠けて見える



ゆがんで見える



アムスラーチャート記録

見え方が変わっていないか定期的にチェックしましょう。発症している側の眼だけでなく、もう一方の眼でも見え方が問題ないか確認しましょう。確認後は症状を記録しましょう。気になることがあれば、医師にご相談ください。

✓か〇を
記入しましょう。

日付		症状		メモ
		左眼	右眼	
年	ぼやけて薄暗く見える			
	部分的に見えない			
	ゆがんで見える			
年	ぼやけて薄暗く見える			
	部分的に見えない			
	ゆがんで見える			
年	ぼやけて薄暗く見える			
	部分的に見えない			
	ゆがんで見える			
年	ぼやけて薄暗く見える			
	部分的に見えない			
	ゆがんで見える			
年	ぼやけて薄暗く見える			
	部分的に見えない			
	ゆがんで見える			

日付	症状			メモ
		左眼	右眼	
年 月 日	ぼやけて薄暗く見える			
	部分的に見えない			
	ゆがんで見える			
年 月 日	ぼやけて薄暗く見える			
	部分的に見えない			
	ゆがんで見える			
年 月 日	ぼやけて薄暗く見える			
	部分的に見えない			
	ゆがんで見える			
年 月 日	ぼやけて薄暗く見える			
	部分的に見えない			
	ゆがんで見える			
年 月 日	ぼやけて薄暗く見える			
	部分的に見えない			
	ゆがんで見える			
年 月 日	ぼやけて薄暗く見える			
	部分的に見えない			
	ゆがんで見える			
年 月 日	ぼやけて薄暗く見える			
	部分的に見えない			
	ゆがんで見える			

アムスラーチャート記録

日付	症状			メモ
		左眼	右眼	
年 月 日	ぼやけて薄暗く見える			
	部分的に見えない			
	ゆがんで見える			
年 月 日	ぼやけて薄暗く見える			
	部分的に見えない			
	ゆがんで見える			
年 月 日	ぼやけて薄暗く見える			
	部分的に見えない			
	ゆがんで見える			
年 月 日	ぼやけて薄暗く見える			
	部分的に見えない			
	ゆがんで見える			
年 月 日	ぼやけて薄暗く見える			
	部分的に見えない			
	ゆがんで見える			
年 月 日	ぼやけて薄暗く見える			
	部分的に見えない			
	ゆがんで見える			
年 月 日	ぼやけて薄暗く見える			
	部分的に見えない			
	ゆがんで見える			

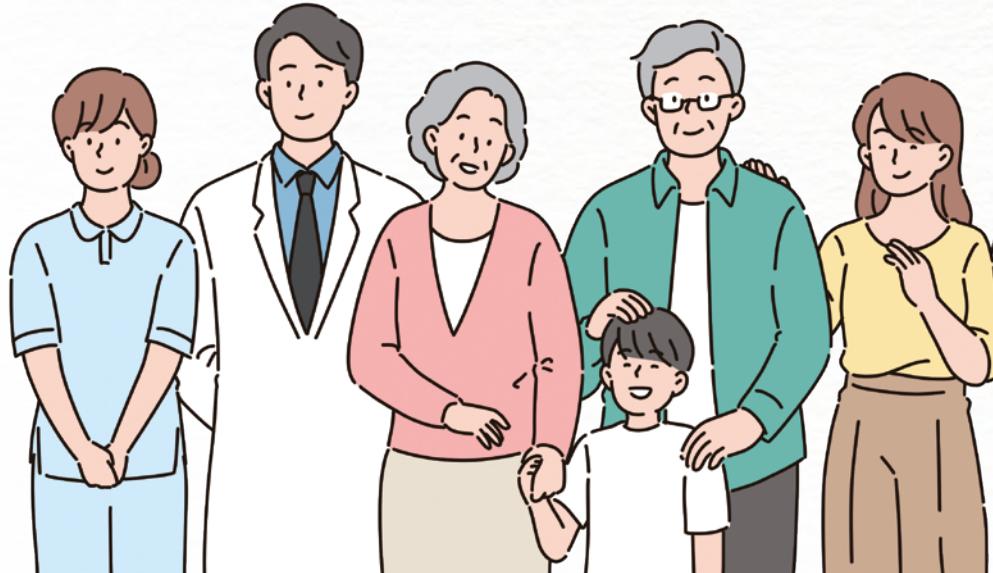
日付	症状			メモ
		左眼	右眼	
年 月 日	ぼやけて薄暗く見える			
	部分的に見えない			
	ゆがんで見える			
年 月 日	ぼやけて薄暗く見える			
	部分的に見えない			
	ゆがんで見える			
年 月 日	ぼやけて薄暗く見える			
	部分的に見えない			
	ゆがんで見える			
年 月 日	ぼやけて薄暗く見える			
	部分的に見えない			
	ゆがんで見える			
年 月 日	ぼやけて薄暗く見える			
	部分的に見えない			
	ゆがんで見える			
年 月 日	ぼやけて薄暗く見える			
	部分的に見えない			
	ゆがんで見える			
年 月 日	ぼやけて薄暗く見える			
	部分的に見えない			
	ゆがんで見える			

記録シートが足りなくなったら医療従事者にお伝えください。

ご家族の方にお願いしたいこと

萎縮型加齢黄斑変性によって引き起こされる視覚障がい（視力低下、視界のゆがみ、視野の中心が暗く見えなくなる、視界がぼやけるなど）は、**日常生活だけでなく、社会との関わりや精神面にも影響を与える**ことがあります。

ご家族の方も、この冊子を通して、**患者さんの病気や日常生活における困りごとについて、ぜひ理解を深めていただければと思います。**ご家族の方の理解が、患者さんの視力や視野の変化にいち早く気付くきっかけとなり、日常生活での困りごとの対策と一緒に考える助けになることを願っています。



また、アイザベイ[®]による治療を続けていくうえで、ご家族の方のサポートはとても大切です。患者さんには治療のために定期的に通院していただく必要がありますが、検査や治療の後は目が見えにくい状態になることがあります。ご家族の方には、通院時の付き添いや送り迎えなどにおいて、ぜひご協力をお願ひいたします。

そして、患者さんがアイザベイ[®]を投与された日や翌日以降に、ご家族の方からみて気になる症状がある、普段と違うと感じることがあれば、すぐに医療機関に連絡してください。

患者さんが前向きに治療を継続していくよう、医療従事者とともに、ご家族の方も大事な医療チームの一員として、ぜひ患者さんのサポートをお願いいたします。



▶ 動画のご案内

本冊子に掲載している内容を中心に、
萎縮型加齢黄斑変性と
アイザベイ®による治療のポイントを
解説した動画をご覧いただけます。



動画は、Webサイト（アステラスくすりガイド）からご覧いただけます。
以下のURL、二次元コード、または検索からアクセスしてください。

■ <https://www.astellas.com/jp/patient-product/izv/movie>

■ アステラスくすりガイド

検索エンジンに、「アステラスくすりガイド」と入れて検索し、製品名から「アイザベイ」を選んでください。



この薬に関するお問い合わせは「アステラスくすり相談センター」まで

患者さん・ご家族の方専用：0120-865-093

受付時間：月曜～金曜日 9:00～17:30(土日・祝日・会社休日を除く)

病医院：

担当医：